

## 四国東南部における縄文時代晩期から弥生時代の農耕

中村 豊

### はじめに —四国島南部における農耕の特徴—

今回の報告では、やや特徴的にもみえる、四国東南部地域における縄文時代晩期から弥生時代の農耕について出土種実資料や出土遺構を中心に、遺跡の立地をふまえて概観する。

#### 1 縄文晩期の農耕

近年、レプリカ法によって明らかとなった、縄文時代中期頃からみられるダイズ・アズキの栽培が、いつ頃西日本に伝播するのかは、現時点で判明しない。ただし、水銀朱、すなわちウルシの利用からみて縄文中期末（徳島市矢野遺跡）に植物利用上の画期が想定され、縄文後期中葉（岡山市津島岡大遺跡）から晩期前半（京都市上里遺跡、檀原市・御所市観音寺本馬遺跡）にはダイズ・アズキの資料が散見されるようになるので、この間に、マメ類の栽培が定着したとみられる。

一方でイネ科の穀物は、縄文晩期後半、すなわち凸帯文土器の時代には定着していたとみられる。四国や徳島地域での事例を挙げると、愛媛県新居浜市上郷遺跡のイネの圧痕（中村 2015）、高松市林・坊城遺跡（遠藤 2012、濱田 2014）のアワ圧痕、今治市叶浦 B 遺跡におけるアワ圧痕、高松市東中筋遺跡のイネ玄米圧痕（中村 2015）、徳島市名東遺跡のイネ・アワ圧痕、阿南市宮ノ本遺跡のイネの圧痕（中村・中沢 2014）がある。土器編年でいうと、沢田式（口酒井段階～船橋式）とそれ以降（長原式併行期以降）には多くの遺跡でみられる。

徳島市三谷遺跡は、縄文時代晩期末の凸帯文土器と弥生時代前期初頭の遠賀川式土器とがともなって出土する遺跡である。近畿地方でいう長原式～その直後に併行する。貝塚からは多量の炭化したイネ・ダイズ・アズキのほかアサがみられた（勝浦編 1997、勝浦・市川編 2018）。これにレプリカ法によってアワ・キビが加わる（中沢ほか 2012）。一方でヤマモモ、アカメガシワ、イチイガシの出土がみられる。狩猟・漁撈・採集の役割は少なくなく、農耕を既存の生業のなかに選択肢のひとつとして加えた様相をかいまみることができる。縄文時代特有の呪術具である、石棒が多量に出土していることも社会に大きな変化が起きていないことを示唆する。

以上のように、縄文時代晩期後半には、イネ・アワ・キビなどが四国周辺で浸透していたと推察される。一方、本格的な灌漑水田稲作をおこなっていた確実な事例はみられない。三谷遺跡をはじめ、当該期の集落規模は大きくなく、狩猟・漁撈・採集は健在であり、農耕を既存の生業のなかに選択肢のひとつとして加えたのみで済むのが穏当である。三谷遺跡はこれに応じた生業を視野におくため、内湾に面して立地する。後の灌漑水田稲作を軸とする徳島市庄・蔵本遺跡は、少し上流側の緩傾斜を擁した地にある。

#### 2 灌漑水田稲作

弥生時代前期中葉において、西日本各地で灌漑水田稲作が本格化する。庄・蔵本遺跡は、三谷遺跡の西方約 600～800mに位置する。眉山の裾を流れる鮎喰川の旧河道に七か所以上の井堰を設けて取水し、用水路へ導く。用水路は一旦微高地に揚水し、低地へ向かう緩傾斜を利用して灌漑する。限られた水田調査地点を繋ぎ合わせると、東西・南北ともに約 100m にわたって確認でき、少なくとも 1 万 m<sup>2</sup> 以上の水田を造成したものと推察される（三阪編 2016）。上流側から取水した用水が北側外縁部の水田を灌漑しているところからみて、下流側から水田を整備していったことがわかる。一方で畠跡も検出されており、隣接して炭化種実が出土した。イネ 74 点、アワ 242 点、キビ 20 点、ヒエ属 7 点、

キビ連（アワ・キビ・ヒエのいずれか）136点、シソ、マメ科などが出土している。灌漑水田稲作を中心に、雑穀などを補完する形で農耕を営んでいたことがわかる（那須 2017）。堅果類や炭化鱗莖類（米田・佐々木 2017）が出土している点は見逃すべきでなく、採集活動も継続していたことがわかる。庄・蔵本遺跡ではイネ・アワ炭化種実など農耕関連資料は、弥生時代前期末まで安定して検出されている。

徳島県東みよし町大柿遺跡は、庄・蔵本遺跡の位置する吉野川下流域から 60km ほど上流の吉野川中流域北岸に位置する。大柿遺跡でも当該期の水田を検出している。

庄・蔵本遺跡と大柿遺跡は、いずれもその後、弥生時代前期末から中期初頭にかけて、厚さ約数 10cm を超えるような砂層によって埋没する。同じような動向は吉野川水系で広く観察され、板野町黒谷川郡頭遺跡・石井町石井城ノ内遺跡・徳島市南庄遺跡など、沖積平野に立地する弥生時代前期の遺跡は断絶する。その後、吉野川中流域では河岸段丘への進出がみられ、吉野川下流域の平野部では山裾などに小規模化し散在する。当該期に灌漑水田を拡大するような動きはみられない。弥生時代中期後葉には、やや規模の大きい遺跡の形成がみられるが、農耕関連遺構は大柿遺跡の階段状水田（栗林編 2001、第 1 図、註 1）を検出するのみである。

### 3 植物遺体出土遺構からみた弥生時代中期以降の農耕

弥生時代中期以降の農耕関連遺構は多くないため、これを補完するために植物遺体出土遺構から当該期の農耕を予察する。なお、当該期のレプリカ法を進めているが、弥生時代前期と中期の交を境に急速に圧痕の類例は減少する。

弥生時代中期前葉から中葉の良好な遺跡は少ない。弥生時代中期後葉・同後期初頭の吉野川中流域北岸の河岸段丘や扇状地に立地する、複数の遺跡から植物遺体が検出されている。阿波市北原遺跡からイネ・マメ科・エゴノキが検出されている。エゴノキは阿波市前田遺跡、同桜ノ岡遺跡、同北原～大法寺遺跡からも検出されている。これらの事例は 1980 年代から 1990 年代初頭の検出であり、その後植物考古学は急速に進歩したため、「エゴノキ」とされていたもののなかに、マメ科（アズキ）や堅果類（イチイガシ）が含まれていないか、今後検証が必要である。以上の遺跡はいずれも北原遺跡が扇状地、あとは河岸段丘に立地する。完形を含む多量の土器が出土する貯蔵穴とみられる土坑（林・谷 1988、第 2 図）から炭化した状態で出土することが多い。いずれも灌漑水田稲作には向かない環境にある。マメ科の検出はみられるので畝作はおこなわれていたとみられる。アワ・キビなど雑穀類の検出に向けて、今後はレプリカ法が必要となる。

三好市大谷尻遺跡は、吉野川中流域北岸の河岸段丘上に立地する弥生時代後期初頭の遺跡である（近藤編 2015）。麓からの標高差約 50m、標高約 150m に立地する（第 3 図）。複数の貯蔵穴とみられる土坑から、多量の炭化種実が出土している。SK1013 の壺のなかからは多量のイネ、ササゲ属（アズキか）、コナラ属（イチイガシか）が、SK1118 からは多量のササゲ属（アズキか）が、SX1005 からはイチイガシ、コナラ属（イチイガシか）が、SX1006 からは多量のイネとササゲ属（アズキか）、コナラ属（イチイガシか）が出土した。特筆すべきはイネの出土量で、概算で約 163 万粒という。これらのイネ種子は、特徴的な形態をもつ。和佐野喜久生氏（2005、第 4 図）による分析によると、「本遺跡の炭化米粒特性は長粒系に属し須川遺跡のものに類似するが、粒幅が最も広い国内最大の長・大粒型品種で粒厚も最も厚かった」、「他に類例のない極広粒のものも 4%みられた」、「これまで四国及び近畿地方で炭化米粒特性を調査した弥生時代中期以前の遺跡には（中略）炭化米粒特性はほとんどが短粒系で本遺跡のものとはまったく類似しない」、「陸稲品種であった可能性もある」としている。

徳島地域以外の関連資料にも言及しておきたい。南国市田村遺跡（松元ほか 2015、物部川下流域沖積平野）からは、弥生時代中期後葉のイネ・アワ・キビ・アズキ・ダイズが多量に検出されている。

また同時期のバーガ森北斜面遺跡（松元ほか2015、仁淀川支流の河岸段丘）からは、多量のイネ・イチイガシ（アカガシ亜属、コナラ属）が出土している。

## まとめと課題

以下、四国東南部における縄文晩期から弥生時代の農耕の特徴を列挙する。

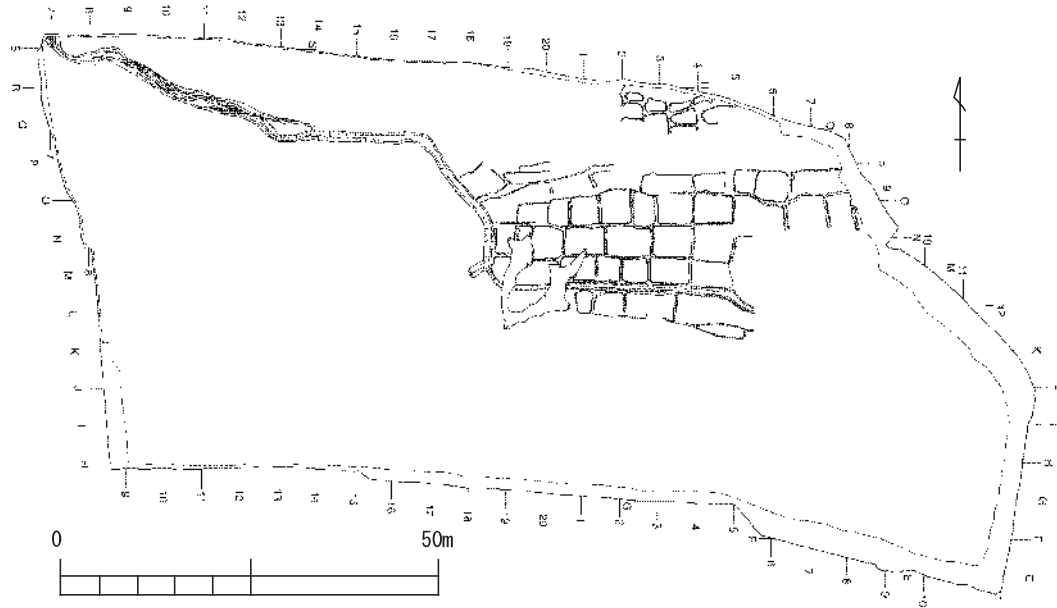
- 1 縄文時代後期中葉から晩期前半までには、ダイズ・アズキ類の栽培が定着している。
- 2 縄文時代晩期後半の凸帯文土器期にはイネ・アワ・キビの定着がみられるが、ダイズ・アズキ類の栽培やイチイガシなどの採集は継続する。既存の生業に、農耕という新たな選択肢が加わった様相である。
- 3 弥生時代前期中葉には灌漑水田稲作を中心とする生業がおこなわれる。一方でアワ・キビ・ダイズ・アズキの生産（畠作）も少なからず併存している。ヒエがみられる点や、縄文時代からの伝統である、堅果類や鱗茎類の利用が継続する点も見逃すべきではない。
- 4 弥生時代前期末頃に吉野川中・下流域水系全域で砂層の堆積が顕著にみられ、平野部での灌漑水田稲作は停滞する。遺跡は小規模化し、河岸段丘上への進出がみられる。
- 5 弥生時代中期から後期にはおもに河岸段丘上の遺跡に貯蔵穴がみられる。イネ・アズキとともにイチイガシがよくみられる。アワ・キビはレプリカ法による検証が必要。
- 6 弥生時代後期初頭の大谷尻遺跡からは、多量のイネ・ダイズ・イチイガシが検出されている。イネは炭化米粒特性が国内最大の長・大粒型品種であり、稲作にも多様性がみられた可能性がある。
- 7 弥生時代中期後葉（バーガ森北斜面遺跡）や後期初頭（大谷尻遺跡）にいたっても、イチイガシの利用は少なからず認められる。ただしドングリピットはない。
- 8 本地域のマメ類は、縄文から弥生時代を通じてダイズ・アズキともにみられるが、アズキの量が多い傾向にある。

### 【註】

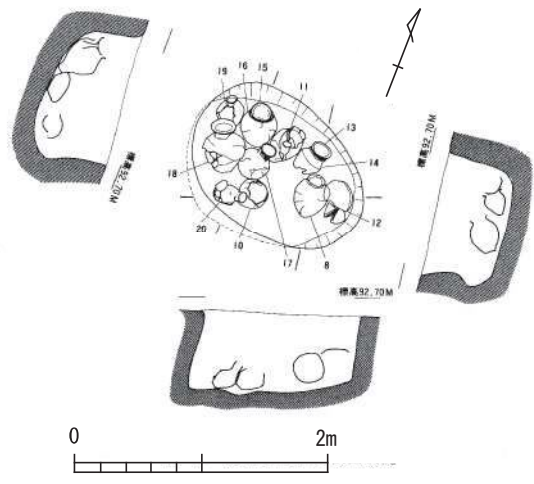
1 大柿遺跡の弥生時代中期後半と報告されている階段状水田は、当初弥生時代前期後半とされ、下層の水田と同時期とされた（栗林1998）。筆者は吉野川下流域の水田埋没期や吉野川流域の遺跡動態からみて、当初の可能性を捨てきれずにいる。

### 【参考文献】

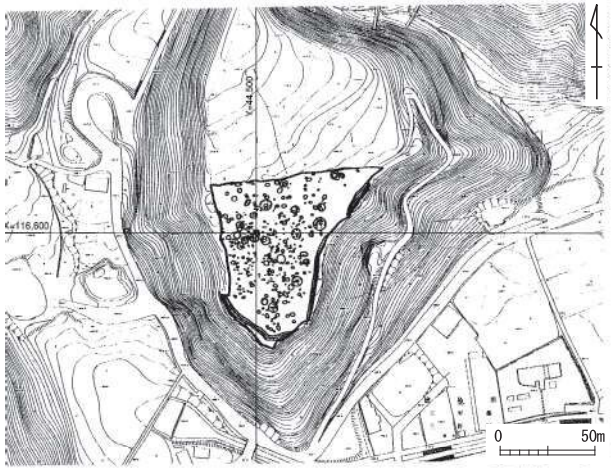
- 遠藤英子 2012 「西日本の縄文晩期から弥生前期遺跡を対象としたレプリカ法の実践—第二次調査：中国・四国地域—」『高梨学術奨励基金年報平成二四年度研究成果概要報告』46
- 勝浦康守編 1997 『三谷遺跡』徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会
- 勝浦康守・市川欣也編 2018 『三谷遺跡 本文分冊・自然遺物編』徳島市教育委員会
- 栗林誠治 1998 「大柿遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』9
- 栗林誠治編 2001 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 18 大柿遺跡 I』徳島県埋蔵文化財センター調査報告 37
- 近藤 玲編 2005 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 28 大谷尻遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告 53
- 中沢道彦・中村 豊・遠部 慎 2012 「レプリカ法による徳島県三谷遺跡出土土器の種実圧痕の研究」『青藍』9
- 中村 豊 2015 「縄文晩期から弥生時代の農耕について—東部瀬戸内地域を中心に—」『みずほ別冊 2 弥生研究の交差点—池田保信さん還暦記念—』
- 中村 豊・中沢道彦 2014 「レプリカ法による徳島地域出土土器の種実圧痕の研究」『青藍』10
- 那須浩郎 2017 「庄・蔵本遺跡第20次調査 SD312 から出土した炭化種実」『紀要』3 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室
- 濱田竜彦 2014 「山陰地方の突帯文土器と縄文時代終末期の様相」『中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像』中四国縄文研究会
- 林 慎二・谷 匡人 1988 『土成町北原遺跡』徳島県教育委員会
- 松元美由紀・高橋 敦・辻 康男 2015 「田村遺跡群Ⅲの自然科学分析」（久家隆芳編『田村遺跡群Ⅲ』）高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 142
- 松元美由紀・高橋 敦 2015 「自然科学分析」（吉成承三・横山 藍編『バーガ森北斜面遺跡』）高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 144
- 三阪一徳編 2016 『庄・蔵本遺跡 2』徳島大学埋蔵文化財調査報告書 5
- 米田恭子・佐々木由香 2017 「庄・蔵本遺跡出土の土器付着炭化鱗茎の同定」『紀要』3 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室
- 和佐野喜久生 2005 「大谷尻遺跡の炭化米粒特性と稲作起源」（近藤 玲編『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 28 大谷尻遺跡』）徳島県埋蔵文化財センター調査報告 53



第1図 大柵遺跡弥生時代前期水田 (1/1000、栗林編 2001)



第2図 北原遺跡土坑3 (貯蔵穴、林・谷 1988)

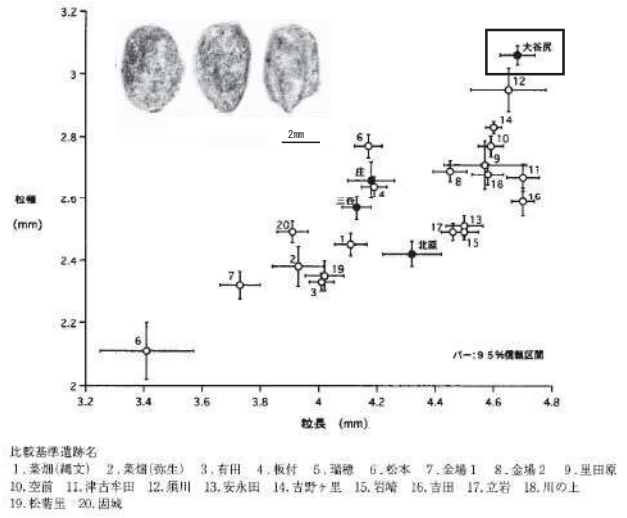


第3図 大谷尻遺跡 (1/4000、近藤編 2005)

| 遺跡名   | 栗加(縄文) | 栗加(弥生) | 有田   | 板付   | 瑞穂   | 松本   | 金場1  | 金場2  |
|-------|--------|--------|------|------|------|------|------|------|
| 時代    | 縄文晩期   | 弥生前期   | 弥生前期 | 弥生前期 | 弥生前期 | 弥生前期 | 弥生中期 | 弥生中期 |
| 所在地   | 唐津市    | 唐津市    | 前原市  | 福岡市  | 福岡市  | 北九州市 | 朝倉郡  | 朝倉郡  |
| 長(mm) | 4.11   | 3.93   | 4.01 | 4.19 | 4.17 | 3.41 | 3.73 | 4.45 |
| S.D.  | 0.35   | 0.28   | 0.22 | 0.24 | 0.24 | 0.56 | 0.36 | 0.30 |
| 幅(mm) | 2.45   | 2.38   | 2.33 | 2.64 | 2.77 | 2.11 | 2.32 | 2.69 |
| S.D.  | 0.23   | 0.20   | 0.15 | 0.18 | 0.19 | 0.31 | 0.23 | 0.17 |
| 厚(mm) | 1.93   | 1.95   | 1.59 | 1.80 | 1.86 | 1.59 | 1.56 | 1.74 |
| S.D.  | 0.22   | 0.24   | 0.11 | 0.13 | 0.15 | 0.29 | 0.21 | 0.17 |
| 長/幅比  | 1.69   | 1.66   | 1.72 | 1.59 | 1.51 | 1.62 | 1.61 | 1.66 |
| S.D.  | 0.17   | 0.12   | 0.11 | 0.11 | 0.11 | 0.17 | 0.14 | 0.11 |
| 調査粒数  | 155    | 38     | 107  | 120  | 100  | 46   | 104  | 101  |

| 遺跡名   | 空前   | 須川   | 津古半田 | 安永田  | 吉野ヶ里 | 八女岩崎 | 八女吉田 | 大谷尻  |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 時代    | 弥生前期 | 弥生前期 | 弥生中期 | 弥生中期 | 弥生中期 | 弥生中期 | 弥生後期 | 中期末  |
| 所在地   | 小郡市  | 朝倉郡  | 小郡市  | 鳥栖市  | 佐賀県  | 八女市  | 八女市  | 三好郡  |
| 長(mm) | 4.59 | 4.65 | 4.70 | 4.50 | 4.60 | 4.50 | 4.70 | 4.68 |
| S.D.  | 0.22 | 0.41 | 0.28 | 0.34 | 0.19 | 0.25 | 0.17 | 0.29 |
| 幅(mm) | 2.77 | 2.95 | 2.67 | 2.51 | 2.83 | 2.49 | 2.59 | 3.06 |
| S.D.  | 0.17 | 0.22 | 0.22 | 0.18 | 0.13 | 0.13 | 0.21 | 0.18 |
| 厚(mm) | 1.95 | 2.16 | 1.92 | 1.86 | 1.98 | 1.76 | 1.91 | 2.31 |
| S.D.  | 0.20 | 0.18 | 0.17 | 0.15 | 0.13 | 0.12 | 0.18 | 0.19 |
| 長/幅比  | 1.66 | 1.58 | 1.77 | 1.80 | 1.63 | 1.81 | 1.83 | 1.54 |
| S.D.  | 0.11 | 0.17 | 0.16 | 0.15 | 0.10 | 0.12 | 0.14 | 0.12 |
| 調査粒数  | 100  | 39   | 100  | 110  | 180  | 100  | 76   | 100  |



第4図 大谷尻遺跡出土炭化米の特徴 (和佐野 2005)